

消防だより

火の用心

Tokamachi Fire Department

No.65



平成21年9月10日

みんなの笑顔でつながる 20年!!

FIRE FESTIVAL
消防ひるば 20th

二十周年

今年でなんと20回目！
みなさんのご来場を お待ちしています！

日時 平成21年9月20日(日)
午前10時～午後3時
場所 十日町市本町6丁目 キナーレ
主催 十日町地域消防本部・署
協賛 防火管理者協議会
危険物安全協会十日町地区支会



消防ひろば20周年

Anniversary Project

「消防ひろば」20年のあゆみ



Fire Festival

はしご乗りの妙技 (H8)



初の津南町での開催! (H7)

十日町市役所本庁を会場にした初期の消防ひろば。(H2-4、6年)手紙をくれた当時の小学生が今や社会人!この中から未来の消防士も!交通事故を想定した訓練なども披露しました。



第1回消防ひろば



川西町で初開催 (H9)



消防車に落書き? なんてコーナーも! (H10)



第10回消防ひろば (H11) 雨天により屋内開催。天気には勝てず...

幼い頃からの防火意識を高めることを目的に開催され、今年で20回を迎える「消防ひろば」。年々、盛況となる中、昨年約2,500人が来場しました。「第1回消防ひろば」は、平成2年に開催されました。これまで、十日町地域10回、川西地域3回、津南町、中里地域、松代・松之山地域で各2回行われていました。限られた予算の中で、基本は『手作り』。住民の皆さんから消防・防災について理解を深めてもらうために皆でアイデアを出し合い、様々なコーナーを開設してきました。

「さあ、節目となる第20回消防ひろばが今年もやってきます。小さいお子さんはもちろん、大勢のみなさんのご来場をお待ちしています。」

「もつ、20回になるのか...」

根津さんが感慨深そうにアルバムをめくっていく。

20年前、消防ひろばは産声をあげた。当時予防課の主任であった根津さんはその斬新なアイデアと行動力で、第1回消防ひろばを大成功に導いた。

「当時の自治省消防庁が、あまりにも住宅火災での死者が多いことから、その年を『住宅防火元年』と位置づけ、火災予防を徹底的にやれ!と叫びつたように記憶しています。それじゃ、ウチも何かやろう!と考えたのが発端で、こつしたイベントは、近隣でも珍しかったと思います。やるなら職員も楽しんでやろうじゃないか!そのパークは子どもたちに絶対伝わる」とね。でも、初めてだったから、すごく不安だった。当日の開始30分前にドトールと客が押し寄せた時は、感動で思わず涙が出たこ

消防ひろばはどうして生まれたのか? 第1回目の様子などを、当時の担当の根津さんにお聞きしました。



元消防職員 十日町市在住 根津 征吉さん(64)

PROFILE ねつ せいきち

昭和19年十日町市生まれ、昭和37年消防士拝命。予防分野に卓越した才能を発揮し、消防ひろばの創設に尽力。以後、消防ひろばには毎年のように携わり、平成16年退職。現在に至る。



とを今でもしっかりと覚えていきます。長野ナンバーの車が通りすがりに入場してくれ、大変感激したということ、手紙までくれました。それまでは、相当考え、悩んではかりだったが、終わった後の充実感はずいぶん思ったね」と根津さんは当時を振り返ります。

そして、「日本人は欧米に比べ、火に対して用心深い人種なんです。大昔から大火を経験してきているからでしょうね。でも、やはり人間なんですよ。『つい、うっかり』は今も昔も変わらない火事の原因。でも、日頃から当たり前のことをちゃんとしていけば安心なんです。そのためには、幼少期が大変。1年に1回消防ひろばに連れて来て、「消防車・救急車!」と子どもが意識してくれることが、その子の火の用心の教育になると私は思います。これから、消防ひろばは続けていって欲しいし、OBとしても期待しています。私も、今年の消防ひろばに行って、みなさんから元気を分けてもらおうと思っています!」と根津さんはこやかに語ってくれました。

9月20日はキナーレに集合!

皆さんの機会に考えてみませんか?

火災をおこさないために:

万一の救急の時には:

また来る地震に備えて:

消防・救急・防災に関する展示や、体験コーナーなどを通じて、最新の技術と情報に直接触れることができます。また、家族で楽しみながら参加できるよう、防火衣・救急服を着用しての記念写真撮影や、ロープを渡る救助訓練、ミニ消防車の記念運転免許証の発

第20回消防ひろばメニュー

プログラム

- 10:00 はじまり
- 10:30 北越保育園
アトラクション
- 11:00 救急隊の活動を見てみよう
- 11:15 レスキュー隊の活動
- 11:45 はしご車体験試乗
(1回目の抽選会)
- 12:15 救助工作車と綱引き大会
- 13:15 救急隊の活動を見てみよう
- 13:30 慈光保育園
アトラクション
- 14:00 はしご車体験試乗
(2回目の抽選会)
- 14:30 救助工作車と綱引き大会

コーナー

- 綿あめ
- 風船
- 救急、キッズアビュランス
- ちびっこ救助隊
- ミニ消防車
- ボンボン落とし
- 防災クッキング
- 住宅防火
- 濃煙体験
- 消防PR
- 起震車
- 消防車展示
- 消防団女性部

【子どもにおすすめ体験】

- ちびっこ救助隊 ~きみも未来のレスキュー隊員!~
- 救助工作車と綱引き ~重さ10t。みんなで力を合わせよう~
- はしご車体験試乗 ~限定40人!じゃんけんで勝ち抜け~
- ミニ消防車 ~記念運転免許証がもらえる~

【大人におすすめ体験】

- 住宅防火コーナー ~住宅用火災警報器の設置について詳しく~
- 濃煙体験 ~煙はこんなに怖い。体験せよ~
- 起震車 ~中越地震からもうすぐ5年~
- 救急コーナー ~AEDってなに?~
- 防災クッキング ~カレーとホットケーキをこんなもので...~

行など、たくさんさんの催しを計画しています。北越保育園、慈光保育園幼年消防クラブ員がアトラクションで花を添えるほか、消火器体験(ボンボン落とし)や綿あめ・風船コーナーもあります。

第20回にふさわしい楽しい企画が盛りだくさん!20日はご家族おそろいでキナーレにおいでください。

動物ふれあいコーナー(H12)

初めての城ヶ丘での開催(H13)

川西町役場駐車場(H14)

今年の目玉は、復活したはしご車体験試乗!

十日町地域消防署のはしご車は、全国でも数台のダイムラー・ベンツ社製です。平成元年度に配備し、8月にオーバーホール(新品時の性能状態に戻す作業)を終えたばかりです。

消防ひろばの花形的存在であった体験試乗ですが、車の老化に伴い、数年前から行っていませんでした。今年は修復修理が済んだことから、復活が決定!

ただし、人数と時間の制限があるため、試乗は午前と午後の2回。じゃんけんで勝ち抜いた小学生以上の40人限定とします(1回20人)。希望する人は時間までに屋外の消防車展示コーナーへ。

こういった寸劇も消防ひろばならでは!
アンパンマンをAEDで助けるバイキンマン(H19)

昨年のキナーレではポニョも参加して盛大に盛り上がりました!(H20)

和太鼓パッチリきまってきたよ!(H16)

松代町役場駐車場(H15)

ミニ中車会場は雨の
ため閉店(H17)

間近で救助隊の活動が見れる良い機会でした。十日町市役所駐車場(H18)

幼年期からの防火思想の高揚には まずは家庭での火の用心!



その「ひんじゅ」から始まる

住宅用火災警報器

質問
住宅に消火器を設置する義務はあると思いますか？

答え

法律による消火器の義務付けはありません。しかし、住宅用火災警報器は義務化されました。

※消火器は設置義務がありませんが、初期消火に大変効果のある器具です。一家に一具は備えておきたいものです。

高齢化社会を迎え、住宅火災の逃げ遅れによる死者数が増加する傾向があります。火災から命を守る最初の行動はまず「火災を発見」することです。いくら消火器を抱いて寝ていても、火災に気づかなければ身を守ることはできません。

消防法及び火災予防条例の改正により、すべての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が必要となりました。住宅を新築する際は、住宅用火災警報器を設置しないと許可が下りません。既存の住宅にも設置の期限が近づいてきています（平成23年5月末日まで）。



住宅用火災警報器を設置した様子

現在、十日町地域でも、設置数が伸びてきていますが、まだまだ普及していませんが現状です。

そこで、これから設置する皆さんにお願いです。設置するときに、周りの人へ「ひとこと」を加えてみてください。

子どもへは、

「うちにも火事になるとピツと鳴る警報器を付けたんだよ!」

近所には、「オウ家にも警報器つけてもらったてえ!」などといった「ひとこと」です。

このたった「ひとこと」の積み重ねが、早期の設置に弾みをつけ、子どもに対しても、より良い「防火教育」につながると考えています。「うちには消火器と警報器があるよ」といった話が子どもたちから聞ける社会になるといいですね。

※消防ひろばの住宅防火コーナーで、どこにどれだけ設置したらいいかなど、詳しく説明します。住宅用火災警報器は各家によって設置個数が変わります。この機会に話を聞いてみませんか。

あぶないから

子どもから火を遠ざける...

小さいころから、「マッチ一本火事のもと!」と教えられて大人になりました。昔から、子どもの火遊びは大人の責任とされ、大人も子どもに対する防火指導を、ことある度に徹底的に行っていました。

今もそのことに変わりはないと思いますが、家族形態が変わり、核家族や地域の結びつきが失われていく中で、幼年期の防火指導は十分と言えるでしょうか？

子どもの火遊びによる火災は全国で数千件を起します。純粹な子どもが失火者となる悲しい出来事は、消防のみならず、地域全体に暗い影を落とします。

このような火災を防ぐにはどうしたら良いかを考えた時、ふと、「危険だからと言って、逆に子どもを火から遠ざけていないか?」と思えました。

自宅でのゴミの焼却をしながら、花火を手れば親がライターで火をつける。仏壇に毎日線香をあげる習慣もない。子どもから「火」そのものが遠い存在となっていて、なぜ危険かふせ使っちゃだめなのか?が欠けている気がしたのです。

火遊びによる火災を減らす指導を併せて、火の上手な使い方を、生活の中で実際に触れさせていく必要があると思います。子どもの成長に合わせて、地域の諸行事の中でも、火の怖さ、そしてありがたさを教えることができます。

この地域から、子どもによる火災がなくなることを願うと同時に、社会全体での「防火教育」が今後も必要となっていくのではないのでしょうか。

消防本部予防課長

高橋 隆之

松代子供夜回り

松代地域の児童園児が夏休みに「火の用心」を行っています。
 この恒例行事は、時代が移り変わる中受け継がれ、子どもたちの防火精神を養ってきたものです。
 参加する子どもも、成長を見守る大人も、地域に根付いた伝統を誇りにしています。
 夜回りは、夏休み期間中、松代の他の集落でも行われ、8月19日夜は、新町子供会(小学生20人、園児5人)が消防団員や保護者のサポート受け、防火広報を行いました。

夏の夜に 届け子供の 火の用心



松代小学校6年生 黒木 帆乃月(ほのつき)さん
 「みんなと夜回りするの大きな声を出せるし、一緒に「火の用心」の呼びかけができるのが楽しい。お道の家の人から顔を出してねって、」
 『「新お婆様」の話を聞いてみたいわい』と笑顔で話していました。

松代方面隊 本部分団長の本柳 学(まなぶ)さん
 「子どもたちの「火の用心」の声を聞くのは住民が一生懸命。地域の無火災(防火思想)に貢献できているのではないかと地域の伝統に胸を張る。」「何より子どもたちの「火の用心」の話を聞いてみたいわい』と助け合の精神を押しつけている時期を込めてです。

お知らせ

平成21年9月・10月行事予定

◆9月13日(日)	中里方面隊	秋季消防演習
◆9月20日(日)	津南町消防団	秋季消防演習
◆10月4日(日)	十町町方面隊	下条地区秋季消防演習 (下条小学校)
◆10月11日(日)	川西方面隊	秋季消防演習(仙田道の駅)
◆10月18日(日)	十町町方面隊	吉田地区秋季消防演習 (吉田中学校)
◆10月24日(土)	普通救命講習	現在受付中 (南分署)

救急救命士のワンポイント救急メモ

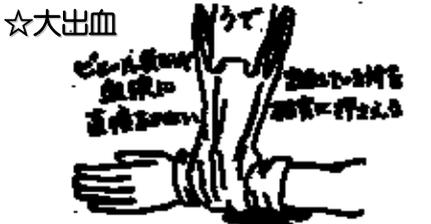


こんにちは。救急救命士の根津です。

前回の熱中症に続いて2回目の連載になります。今回も皆さんに少しでも生活に役立ててほしいと思っています。

これから、秋の「アウトドアシーズン」となります。山歩きや自然の中での運動は清々しいものですが、慣れていない人にとっては危険がいっぱいです。特に多いのが頭、顔、手足のケガです。日常生活でも多い、これらの出血や骨折などの応急処置についてお伝えします。

- ☆大出血 30%の血液が失われると、生命に危険な状態になります。タオルやハンカチを重ねて傷口に当て、その上を手で強く圧迫します。例:60Kgの人で約1.5Lが出血すると危険(全身血液量=体重×7%)
- ☆骨折 木の棒や雑誌を利用し患部を支え、タオルなどで固定します。基本的には「そのままの形での固定」です。骨折部位の上下の関節部まで固定します。
- ☆ねんざ 患部を冷水などで冷やし、内出血や腫れを軽くします。



堂々の3位入賞!

川西方面隊 第3分団

どこのも
負けない

団 結 力

消防団最前線

第60回新潟県消防大会
ポンプ操法競技会を終えて



平成21年8月2日、新潟市にて「第60回新潟県消防大会ポンプ操法競技会」が開催されました。十日町地区支会からは、十日町市消防団川西方面隊第3分団が出場し、県内の強豪のひしめく中、堂々の3位入賞を果たしました。
今回は熱冷めやらぬ選手に話を聞きました。



リーダー的存在の須藤さん

その日ポンプ操法の競技が終わると、会場内から拍手が起こり、本番を終えた選手たちにもやっと笑顔が見られた。選手の集中力、本番の強さを感じた。
見事3位入賞を果たした川西方面隊第3分団の皆さんに大会の感想を聞くと、「爽快な風の中を走り抜けることができた。気持ちが良いかった」と話した。

鍛え抜かれた 技術と団結力

「仕事を終えてから夜遅くまで靴が減るほどやった」と訓練の厳しさを話すのは、指揮者の藤巻和人さん(30)。チームがここまでレベルアップできたのは、同じ訓練とともに続けたBチームの存在が大きかった

と分析する。「Bチームとの競争が、本番に最高のパフォーマンスを発揮できた要因となった。また、番員にしかわからない苦労も相談できた」と話した。

家族との絆

「訓練期間中、家を空ける亭主に呆れることなく留守を預かっている妻には本当に感謝しています」と2番員野澤保彦さん(36)は語る。

また、肉体的・精神的に疲れた体を癒したのは、3番員の須藤和男さん(42)の妻の差し入れる料理だった。練習最終日の差し入れは、パワーあふれる「勝負カツ」だった。これを食べた選手はパワーが出ないわけがない。本番に向け、忘れられない味となった。

指導者との関係

「いい年こいた30過ぎのオッサン達がこれだけ一生懸命になれることは他にない。そんな自分たちと同じ立場になりサポートしてくれたのが訓練を担当した消防職員だ。公私ともにいつの間にか仲間になっていった」と1番員村越 剛さん(36)は語った。

「満足感とか達成感とかいうのはどれだけ物事に真剣に取り組めたかで決まると思う。今回は選手の熱意が伝わり、私も心を

動かされた」と保坂指導員は訓練を振り返った。選手の皆さんはもちろのこと、それを応援し陰で支えてきた家族、関係者の皆さん、長期間大変お疲れ様でした。

出場選手

指揮者 藤巻和人



1番員 越村 剛



2番員 野澤保彦



3番員 須藤和男



補助員 北堀正明



ポンプ操法とは

消防団の訓練の一つで、基本的な操作の習得を目指すための手順であり、小型ポンプ操法と、ポンプ車操法があります。設置された防火水槽から吸水し、火災現場を見立てた火点(かてん)と呼ばれる的(まと)にめがけて放水し、撤収するまでの規律性や安全性、迅速さを評価します。

なお、新潟県及び十日町地区支会では、水を実際に通さない操法で実施しています。

赤色灯

「企画広報係は職場の広告代理店業務だよ」4月から広報の担当となり先輩上司から教えられた言葉です。首から下で働きたい私にとっては、厳しい言葉でしたが、なんと半年過ぎることができました。

昔から活字を読むことは好きで、私の中では、自分の世界に浸れる贅沢な時間になっています。皆さんに少しでも防災・救急について分かりやすく書いていけたらと思っています。

今回川西方面隊のポンプ操法チームを取材しました。こちらは直球と変化球を織り交せた会話で攻めよつと考えていましたが、選手皆さんの「日本文理打線」のような熱い言葉の連打を浴びました。うまく記事にできたでしょうか?心配です。お忙しいなか取材にご協力いただき、感謝申し上げます。

20歳になった「消防ひるび」がやってきます。職員は色黒で「見怖そつですが、実は皆様とお話しかけて、うすうすします。ご采場を楽しみにしています。(春)